



道徳の学習では、子供たちの道徳性を育むことをねらいとしています。道徳性とは、子供たちが自らよりよい生き方を見出すための基盤となるものです。学校においては、授業はもちろんのこと、様々な教育活動の場面で指導を行っております。そこで、この道徳性を育む場を広げていくために、学校と家庭がより一層連携を図りながら道徳教育を行っていきたいと考えております。

その一環として、まずは、各学年の道徳授業の様子をお伝えしていきたいと思います。ぜひ、この道徳通信『share』を通じて、ご家庭で話題にいただけると幸いです。今回は4年1組と3年1組の道徳授業の様子です。

4年1組 「なにかお手つだいできることはありますか？」 ～相手によりそう心～

4年1組では「なにかお手つだいできることはありますか？」という教材を使って「相手を思いやる心」について学級で話し合いました。この教材は、主人公のぼくが電車で出会った目の不自由な女性に出会います。駅の柱や階段にぶつかりそうになる女性に声をかけようか迷いますが、最後には決心して声をかけることができたという内容です。

子供たちは学習を通して、相手の立場を考えたり、相手のことを理解したりして、困っている人を助けることの大切さに気づきました。振り返りでは、今回の学習を通して、大切だと思ったことを考えました。

子供たちのふりかえり

- ・どんな相手でも困っている人がいたら声をかけることが大切だと思った。
- ・声をかけることで、相手だけではなく自分もすっきりすることがわかった。
- ・お手伝いできることを考えて、助けようと決心し、行動に移すことが大切。



3年1組 「ヌチヌグスージ」～大切な命～

3年1組では「ヌチヌグスージ」という教材を使って、命は過去からつながっていることを知り、命を大切にする心情を育てることをねらいとして学習しました。「ヌチヌグスージ」とは、沖縄で行われている命の祭りのことです。先祖の墓の前で、感謝の気持ちを歌や踊りで伝えます。初めてこの島を訪れたコウちゃんは、自分の命が宇宙の始まりから続いてきていること、自分の命は先祖の命でもあることを初めて知るという内容です。

子供たちは話し合いを通して、命はご先祖さまからバトンタッチされたもの、リレーみたいにつながっていると気付きました。振り返りの時間では命について感じたことを中心に考えました。

子供たちのふりかえり

- ・自分もいつか命をわたせるようになりたい。
- ・自分が生まれたのは、ものすごい奇跡。
- ・バトンタッチされた命を大切に健康に生きたい。
- ・自分だけでなく、友達もたくさんのご先祖様のおかげでここにいるから、みんなに会えたのはとても少ない確率なんだと思った。



道徳通信への感想や道徳に関するご意見など、保護者の皆様からのコメントをお待ちしております。
何かありましたら、QRコードまたは、切り取り線よりお知らせください。よろしくお願いいたします。

お名前 ()

ご感想やご意見

◎道徳通信にコメントを載せてもよい【 はい ・ いいえ 】

